

教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントに関する研究

研究の目的

新学習指導要領においては、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。

今後、各学校がカリキュラム・マネジメントの取組を一層進めるためには、本道の学校現場に役立つ資料を提供することが重要である。

そこで、本研究は、本道の実態を把握し、課題に応じた資料を作成するとともに、作成した資料を北海道教育委員会が行う基本研修や当研究所の研修講座、オンデマンド配信で活用することにより、各学校の教育活動の質の向上を図ることを目的とする。

研究の内容

本研究では、カリキュラム・マネジメントの三つの側面のほか、本道の現状や当研究所の先行研究等を踏まえ、次の5点を研究内容として取り組むことにした。

- 教科等横断的な視点による教育内容の組立て
- PDCAサイクルの確立
- 人的、物的な体制の確保
- カリキュラム・マネジメントに関する校内研修の充実
- 組織運営の工夫改善



HPへGo!



連携先

【学識経験者】國學院大學 田村 学 教授、横浜国立大学 高木 展郎 名誉教授

【研究協力校】北海道岩見沢東高等学校、北海道野幌高等学校、北広島市立西部中学校
江別市立江別第三中学校、千歳市立緑小学校、江別市立江別第一小学校

研究の成果

本研究では、本道教職員の実態を踏まえつつ、教職員の課題解決のヒントになる資料を作成し、研修講座や各学校における校内研修等で幅広く活用されることを目標として取り組んだ。

今回、各校種の教員を対象にしたアンケート調査や研究協力校の資料、情報提供などの協力を得て、本道の実態を把握した上で、各学校がカリキュラム・マネジメントを円滑に推進する手がかりになる資料を作成することができた。

動画資料は、研究協力校のカリキュラム・マネジメントの実践はもとより、ミドルリーダーや若手教員がキャリア・ステージに応じて、特に大切にしていることなどを収録しており、教育活動の質の向上を図るために、どのようにカリキュラム・マネジメントの充実を図っているかなどについて視聴できることが特徴である。

紙媒体の資料は、教職員が自分の知りたい情報に、様々なチャンネルからアクセスしやすいように整理していることや、研究協力校のカリキュラム・マネジメントに関する資料をダウンロードできることが特徴である。

なお、当研究所が高等学校の教務主任を対象に実施した「カリキュラム・マネジメント実践研修」において、作成した動画を視聴し、内容について交流する講座を実施したところ、動画の内容について86%の教員が肯定的な回答（大変役立つ内容だった／おおむね役立つ内容だった）としていることから、カリキュラム・マネジメントの理解を促す一助になっていると考えられる。

本資料の活用の効果については、成果の定量的な把握は難しいと考えるが、現場の声に耳を傾け、未来教育の創造に役立つことができるよう改善を図りたい。

動画へ
Go!



紙資料へ
Go!



- 大変役立つ内容だったと回答した理由（抜粋）
 - ・ 日常取り組んでいることを、カリキュラム・マネジメントの視点で整理する必要性を感じた。
 - ・ 学校として目指す目標を可視化することや、その実現に向けて教員の横の連携が大切であることを実感した。
 - ・ カリキュラム・マネジメントは全教職員で取り組むものであり、そのためには人のつながり、互いの成長が大切だと再確認できた。